

カービュー マーケットウォッチ (2011年2月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー(本社:東京都中央区、代表取締役:松本 基)は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

乗用車全体は5カ月連続前年割れだが、輸入車はプラス

11年1月順位	10年12月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(2)	↑	フィット	ホンダ	14,873
2	(1)	↓	プリウス	トヨタ	13,711
3	(5)	↑	ヴィッツ	トヨタ	11,018
4	(3)	↓	ラクティス	トヨタ	6,806
5	(4)	↓	フリード	ホンダ	5,274
6	(6)	→	カローラ	トヨタ	5,161
7	(16)	↑	デミオ	マツダ	4,403
8	(8)	→	パッソ	トヨタ	4,303
9	(一)	↑	ソリオ	スズキ	3,953
10	(11)	↑	セレナ	日産	3,597
11	(7)	↓	ステップワゴン	ホンダ	3,569
12	(9)	↓	ヴェルファイア	トヨタ	3,557
13	(14)	↑	マーチ	日産	3,501
14	(13)	↓	ノート	日産	3,485
15	(10)	↓	ヴォクシー	トヨタ	3,339
16	(17)	↑	ノア	トヨタ	2,766
17	(12)	↓	ジューク	日産	2,691
18	(21)	↑	クラウン	トヨタ	2,621
19	(19)	→	ウィッシュ	トヨタ	2,567
20	(22)	↑	キューブ	日産	2,476

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■乗用車全体は5カ月連続前年割れだが、輸入車はプラス！ 車名別ではフィットが22カ月ぶりにトップを奪取

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した2月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車総数は25万9079台、前年同月比は81.0%で5カ月連続で前年を下回った。2ケタの大幅減となったのも4カ月連続だが、下げ幅は前月より6.5ポイント改善。3ナンバー普通乗用車／5ナンバー小型乗用車は7.8ポイント上向いたとはいえ、16万7574台、前年同月比76.2%と厳しい状況だが、軽乗用車が9万1505台、同91.6%と、2カ月連続でひとケタ台のマイナスとなり、全体としても下げ止まり感が出てきた。年度末商戦となる2～3月に向け、明るい兆しといえるだろう。

輸入車と軽乗用車を除く3／5ナンバーの国産乗用車（新型日産マーチ分含む）は15万7278台で、前年同月比74.6%。メーカー合計では、昨年11月発売の「トレジア」が前月比33.4%増の794台売れたスバルや、昨年12月にモデルチェンジした「ソリオ」が3953台で9位にランクインしたスズキがそれぞれ前年同月比103.4%、147.8%とプラスに転じたが、他メーカーは2ケタ減と落ち込んでいる。月間ランキングでは20カ月連続トップを続けていた「トヨタ プリウス」を「ホンダ フィット」が1万4873台で追い抜き、22カ月ぶりにトップを奪取。10月に追加した「フィットハイブリッド」が7693台と、フィット全体の51.7%を占める好調な売れ行きだったのが、その要因だ。3、4位もモデルチェンジ直後の「トヨタ ヴィッツ」、「ラクティス」が続き、9位にジャンプアップしてきたソリオを含め、コンパクトクラスのニューモデルが新車購入補助金終了の反動減を押し返している形だ。

軽自動車は、貨物車を含めた軽自動車全体でも11万8340台、前年同月比92.2%と堅調。特に12月発売の「ダイハツ ムーヴ（コンテ含む）」が1万4207台、前年同月比22.8%増と好調で、「スズキ ワゴンR」からトップを奪い返した。

輸入乗用車はマーチなどの日本メーカー製を除いた海外メーカー製のみでも、1万34台、前年同月比119.5%（日本メーカー製を含めた輸入乗用車全体では1万3789台、同153.0%）とプラスになり、全体ではリーマン・ショック前の08年1月実績を上回った。海外メーカーブランド別乗用車ランキングは、VW（フォルクスワーゲン）が2758台、前年同月比103.8%でトップに返り咲き、以下、2位メルセデス・ベンツ1574台、3位BMW（ミニを除く）1423台、4位アウディ1396台、5位ミニ554台、6位ボルボ475台と続き、いずれも前年同月比がプラスと、好調な売れ行きだ。

■ココも気になる！その1

トヨタが新車攻勢で、10年度国内販売台数を上方修正

昨年は公的支援策の追い風もあり、年間で141万4991台（乗用車のみ）、前年比114.4%と好調だったトヨタ。リーマン・ショックが9月以降吹き荒れた08年はもちろん、07年の136.6万台をも上回り、国内クルマ販売シェアは30.9%となった。ただ補助金終了の反動減は厳しく、昨年10月からの前年同月比は73.1%、61.8%、64.0%と30.0%前後の落ち込みとなり、今年1月も69.3%と低迷している。

しかしトヨタでは、下落幅は想定内として、昨年終盤に投入した新型「ヴィッツ」&「ラクティス」や「FJクルーザー」といった新車攻勢で盛り返せるとしている。確かに11月発売のラクティスは発売後1カ月で月間販売目標の4500台に対し、3倍強となる1万4000台を受注。12月には前月23位から6670台で3位にジャンプアップし、1月も6806台で4位にランクイン。年末ギリギリの12月22日にデビューしたヴィッツも発売後1カ月で、月間販売目標1万台に対し、2万2000台の受注を集め、1月は12月の5位から3位にアップするとともに、1万1018台、前年同月比126.4%と出足好調だ。また量販車種とはいえないFJクルーザーだが、12月4日の発売から1カ月で約2100台受注し、1月は前月比348.9%の457台。現在の販売環境の中で、300万円台のビッグSUVとしては好調な売れ行きだ。

このため、当初公表していた2010年度（10年4月～11年3月）国内販売台数見通しを3万台上方修正し、143万台（貨物車、レクサスブランド含む）とした。1月12日に投入された「レクサスCT200h」は月間販売目標1500台に対し発売後約1カ月で7500台超の受注となり、1月は839台と、レクサスブランドではダントツの売れ行きとなっている。昨年、世界市場で3年連続No.1となったトヨタだけに、早期のV字回復を期待したいところだ。

■ココも気になる！その2

ゴルフが8年連続年間No.1をゲット！

輸入車の販売データを集計している日本自動車輸入組合（JAIA）から、車名別年間ランキングが発表されたので、海外メーカー製乗用車についてベスト10を紹介しよう。

1位は「VWゴルフ」シリーズで2万6075台（前年比121.8%／前年ランキング1位）、以下、2位「VWポロ」1万4507台（同200%／同6位）、3位「BMW3シリーズ」1万1664台（同83.1%／同2位）、4位「BMWミニ」1万1338台（同103.1%／同3位）、5位「メルセデス・ベンツEクラス」1万850台（同146.1%／同5位）、6位「メルセデス・ベンツCクラス」9206台（同98.1%／同4位）、7位「BMW5シリーズ」6049台（同211.2%／同12位）、8位「BMW1シリーズ」5856台（同109.5%／同8位）、9位「アウディA4」シリーズ5660台（同85.9%／同7位）、10位「アウディA3」シリーズ4506台（同103.9%／9位）となった。

ゴルフは8年連続の年間トップとなり、2位にジャンプアップしたポロとともに、VW 勢が初の1-2位独占を決めた。これでVWは年間販売台数も4万6704台、前年比123.1%を記録。国内の海外メーカー製乗用車市場におけるブランドシェアが25.9%（前年比2.1ポイント増）と過去最高になった。さらに今年はトヨタのVWディーラー網DUO（デュオ）店を統合し、販売網を強化。それだけに今年の販売目標は5万5000台、前年比17.8%増と強気だ。

このほか、「メルセデス・ベンツ Eクラス」や「BMW 5シリーズ」といったプレミアムセダンが前年比146.1%、211.2%と復調傾向。今年1月も前年超と好調さが続いているだけに、輸入車市場の今後の伸びが期待できそうだ。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報・法務室 (pr@carview.co.jp)

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180
